

太平寺跡

伊吹町旧太平寺

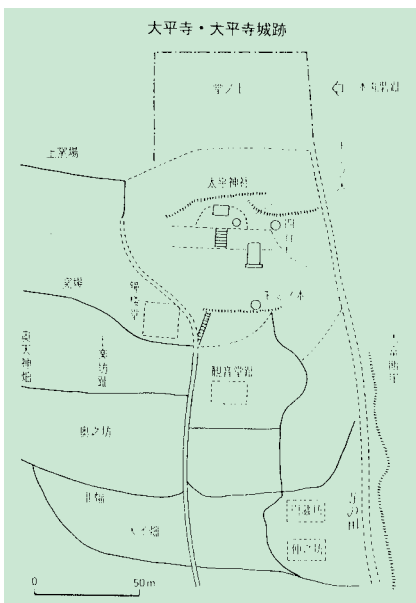
伊吹山寺は四ヶ寺に分立しますが、主要な行事は一山結合して勤められたようです。

そのなかでも太平寺（伊吹山中の標高約四五〇m）は、鎌倉時代に弥高寺と互いに伊吹山寺の本寺を主張した争いを起こすほどの力を持ち、徳治三年（一二三〇）に和議が成立しています。また、伊吹山寺の衆徒や山伏は、鎌

倉幕府倒幕をめざす後醍醐天皇方として活躍したようで、元弘三年（一三三三）には、太平寺に逗留していた亀山上皇の皇子守良親王を奉じて、中山道番場宿（米原町）で、京都を追われてきた北条氏の武士団を全滅させる働きをします。北近江の守護・京極氏は初代氏信以降、太平寺城を拠点にしたと言われており、山岳寺院の立地と施設を利用し、城郭にしたと考えられます。天文五年（一五三六）の記録には、三〇坊ほどの塔頭がみられた太平寺ですが、江戸時代には中之坊など、わず

が生産などを手がけています。昭和三九年、集落上方の斜面がセメント鉱山になったのを期に、一五戸の集落は、惜しまれながら春照に集団移住しています。

■太平観音堂 伊吹町春照
太平寺の法灯を辛うじて伝えているのは、移住時に移された太平観音堂です。ここには、江戸時代の修行僧・円空が作った十一面観音像が、大切に祀られています。観音堂は、平成一五年一月に新築され、訪れる人は皆、円空仏の微笑みに魅了されます。



太平寺跡平面図



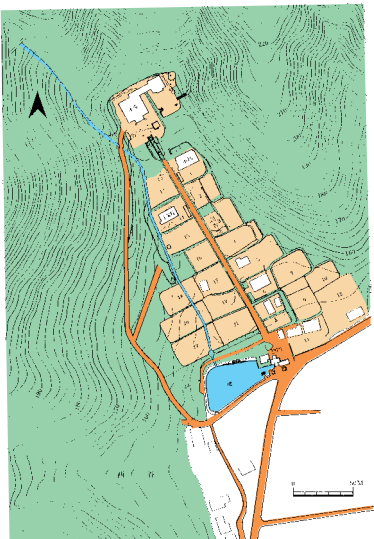
ありし日の大平寺村①



ありし日の大平寺村②

伊吹山寺の古文書群
観音寺

山東町朝日



観音寺平面図

これは他山から伊吹山に入峰する客僧や山伏の宿坊だったと考えられています。室町時代は、將軍の近習として京都で活躍する大原氏の経済的なよりどころとなります。戦国時代には、浅井氏三代から寺領が安堵され、永禄年中には、背後の丘陵上に横山城が築かれました。石田三成と秀吉の出会いの地としても知られています。

■鐘楼【重文】
本堂と同じ正徳五年の建立と考えられています。欄間などの彫刻のみごとなさや、朱を残す垂木など、類例のない鐘楼です。



もと伊吹山にあった観音護国寺が、正元年中（一二五九〜六〇）に現在地に移転して、大原荘の地頭・大原氏の保護を受けながら、弘安年間（一二七八〜八八）までに寺観を整えたといえます。元々の位置ははつきりしませんが、伊吹山三合目の「桑の本」付近や弥高山であったともいわれています。中世観音寺には、一三三の僧坊があり、東谷一三坊と西谷一〇坊、さらに、西谷には法輪寺一〇坊がありました。こ

■本堂【重文】

永宝四年（二七〇七）に着手し、正徳五年（二七二五）に再建完成されました。建築の意匠にすぐれ、なかでも彫刻の豪華さは、近世を代表する傑作といわれています。



■観音寺文書【県指定】
観音寺に伝来している文書は、延応二年（一二四〇）のものを上限に、近世まで数百通あり、特に伊吹山諸寺およびその信仰に関するまとまった文書は、伊吹山寺の歴史を明らかにする貴重な史料です。なかでも、徳治三年（一二三〇）の「伊富貴山弥高太平両寺衆僧和与状」は、伊夫岐神社と四ヶ寺の結びつきを直接示した資料で、注目されています。